



カウナス市 (Kaunas)

【基本情報】

市制定：1408年
面積：157km²
人口：約29万人
公用語：リトアニア語



【概略】

北欧のバルト海沿岸に位置するリトアニア共和国の第二の都市。旧ソビエト連邦併合以前は臨時首都として日本領事館が置かれ、第2次世界大戦中に「命のビザ」を発給した杉原千畝氏が勤務していました。市中心部の旧市街には歴史的建造物が多く残り、美しい街並みが有名です。

【地理】

リトアニアの中央部に位置し、リトアニアの二つの川、ネムナスとネリスの合流地点に挟まれた地形。首都ビリニユスから100キロ、国の主要な港クライペダから212キロに位置しており、それぞれの都市につながる高速道路の中間に位置しています。

【経済】

食品加工、繊維、化学、木材加工等が主要産業ですが、近年ではICT産業やレーザー技術、バイオテクノロジー関連の産業が急成長しています。2004年からEUに加盟し、欧州各国との経済活動も活発に行われています。

【交流の経緯】

2018年に友好交流の覚書を締結したことを契機に、パートナーシップ宣言を交わした両市の港小学校とパネムネ小学校がオンラインで交流するなど教育分野を中心とした交流を行ってきました。また、文化団体が相互訪問し交流を行ったほか、それぞれの市の魅力を紹介する写真展や文化講座を連携して実施してきました。



カウナス市のシンボル「カウナス城」



メインストリート「ライスヴェス通り」